

水難救助時の体制

水難事故が発生した際の救助には、潜水班・水上班・支援班の3つの班が連携し中隊長の指揮のもと救助活動を行います。

1 潜水班

ウェットスーツ・潜水資器材を着装し潜水活動を行う。安全のため2名1組のバディを組み検索・救出を行います。

2 水上班

水面救助に対応できるサーフェイドライスーツを着装し、水上からの検索や要救助者を引き上げるためボートを使用。クレーン免許や船舶免許を保有している救助隊員が主に任務を行います。

3 支援班

常に危険をともなう潜水活動における支援活動(安全管理・情報収集・タラップ設定等)を行う。主に消防隊員が任務にあたります。



ボートを水面に降ろす

潜水資器材 レスキューボード

南芦屋浜での訓練

前日の雨で海水は濁り、潮の流れも速い状況下で、今回の訓練は誤って海に転落した人を水中で捜し救助する想定で行われました。中隊長の指揮のもと訓練は始まり、水上班が海面へボートの入水作業を手際よく進め、潜水班は水中検索のための装備を装着。ボートが訓練ポイントに到着した後、潜水班の隊員が順に海へと飛び込みます。海中は、50センチ先の物体が見えないほど濁り、要救助者の発見に手こずることが予想されます。検索ポイントにブイを設置して、そのブイを起点に5人の隊員が等間隔で反時計回りに旋回しながら検索する環状検索を行いました。“ブイが3回大きく沈む”と要救助者を発見した合図となります。隊員は要救助者と共に浮上し、慎重に護岸へ搬送し訓練は無事に終了しました。



1 2 ボートが訓練ポイントに到着した後、潜水班の隊員が順に海へ。 3 陸上の現場指揮本部は隊員達へ活動を指揮している。 4 5 潜水隊員は要救助者と共に浮上し慎重に護岸へ搬送する。

消防署第1係主査 消防司令補
岡本翔



今回の訓練では、潜水技術の向上や潜水活動の整備を目的とし、特に要救助者を水中から陸上へ引き

揚げる際の連携を重視しました。実際の現場では、潜水隊の管理のほか、各班の連携や救急隊・海上保安庁等との調整が不可欠です。それら全てに漏れがないように広い視野をもって冷静に判断するよう心がけています。



昨年(令和2年)芦屋市での水難事故による出動件数は5件。過去10年間でも、釣り人が海に転落したり、遊びで泳いで溺れてしまい波に流されたものなど24件の水難事故が発生しています。

これからの季節、海や川で遊ぶ人たちも増え、出動機会が増えることも予想されます。芦屋市消防署の隊員たちは“助けを求める人の救助に最善を尽くす”その使命を胸に日夜、出動要請に備え今日も訓練を行っています。